

2019年3月4日

横浜ゴム、世界的なタイヤ技術会議「Tire Technology Expo 2019」で 4件の技術プレゼンテーションを実施

横浜ゴム（株）は2019年3月5日～7日、ドイツのハノーバーで開催される世界で高い注目を集めるタイヤ技術会議「Tire Technology Expo 2019」にて技術プレゼンテーションを行います。横浜ゴムからタイヤ解析や材料に関するものが3件、グループ会社のATG（アライアンスタイヤグループ）からタイヤリサイクルに関するものが1件で、横浜ゴムグループとして合わせて4件の技術を発表します。

Tire Technology Expo 2019は、ヨーロッパで最も重要なタイヤ製造業に関連する技術展ならびに学術会議であり、タイヤに関わる最新技術や最先端の研究結果などが紹介されます。英国のUKIP Media & Events Ltd.の主催で毎年開催されており、誰でも参加することができるため、世界各国の技術者にとって最良の交流の場となっています。

今回、横浜ゴムはタイヤ振動解析、ゴム構造の補強、濡れた路面でのタイヤの接触挙動解析、ATGは使用後のリサイクルゴムの再利用について最新の研究結果を報告します。両社の技術開発の現状を公開し、それぞれの最先端技術への理解を深めていただくことを目的としています。

<発表技術の概要>

逆畳み込み手法によるタイヤの振動解析（横浜ゴム 宮下研究室 宮下直士）

乗心地の良いタイヤを作るためには、路面の凹凸がタイヤに与えた振動が車体側にどのように伝わるかを解析する必要があります。画像解析や信号処理に用いられている「逆畳み込み」手法をタイヤの振動解析に適用した結果を報告します。

セルロースナノファイバーによるSBR（合成ゴム）の補強（横浜ゴム 研究部 川添真幸）

木材を原料とするセルロースナノファイバーはゴムの補強材として将来有望なサステナブルマテリアルです。従来から使われているカーボンブラックによる補強と比較してセルロースナノファイバーによる補強の特徴について報告します。

濡れた平滑路面上を滑るゴムの接触挙動解析（横浜ゴム 網野研究室 中川隆太郎）

タイヤのウェット性能を向上させるためには、ゴムが濡れた路面の上でどのように接触しているかを調べる必要があります。摩擦中のゴムが非常に速い周期で密着と滑りを繰り返していることを明らかにした結果を報告します。

リサイクルゴムの持続可能性と最適化（ATG Partheban Manoharan（パルテバン・マノハラン））

使用済みタイヤの再利用は、地球環境を保護し持続可能な社会を実現するための重要な課題です。使用後のタイヤゴムの粉末化した粉ゴスをタイヤのゴムに少量添加して再利用するための最適な手法を報告します。

●「Tire Technology Expo 2019」公式サイト：<https://www.tiretechnology-expo.com/en/>

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：石塚、赤池
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570